

ひょうたんいけ

桜台小 学校だより
令和3年7月13日
第16号



2年生の教室には、さまざまな形をした風鈴が吊り下げられています。風が吹くと、「チリリン」とすきとおった心地よい音が教室に小さく響き、心が安らぎます。風鈴の音は、短冊が風を受けて舌（ぜつ）を揺らし、舌が外身に当たって音を鳴らします。音は外身と舌の材質などに左右されますが、日本では一般に涼しげな音と表現されてきました。秋を知らせるスズムシなどの虫の声とも似ています。冷房のなかった時代に日本のムシムシとした湿気の多い暑い夏をやり過ごすため、日本では、風鈴の音を聞くことで、涼しさの風情を感じてきたようです。

子どもたちがひょうたん池で遊んだり、地域でトカゲやダンゴムシを捕まえて見せてくれたり、休み時間に「だるまさんがころんだ」や「あやとり」をして遊んだりしている姿を見ると、昭和の時代が思い出され、何だかほのぼのとした気持ちにさせられます。



市教委から夏休みにタブレット端末を子どもたちに貸し出すように指示がありました。新型コロナウイルス感染拡大防止の影響もあり、リモート会議やリモート学習などが導入・推進され、人と人とが直接会わなくても、画面越しに顔を見て話ができるような社会が身近な現実となっています。しかし、自然の中で育つ、集団の中で育つ、生き物にふれて育つといったことと、人と人とがしっかりとかわりあって育つ、といったことも大切にしてほしいと思います。学校は、そんなことができる一つの場所だと考えています。子どもたちにはこれからも、人との出会い、ふれあい、語り合いを大切に、心豊かに学び合って、すくすくと育ててほしいと願っています。

※学校ホームページ「桜台っ子ニュース」では、日々の学校の様子を紹介しています。



算数の研究授業を行いました。

本校が今年度、「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を受けていることを前号でお伝えしましたが、それに加え、本校の主研修として「算数科の学力向上に向けた研究」を進めています。7月5日（月）には、5、6年生高学年部による算数の授業研究を行いました。5年生の図形の合同で、「もともになる三角形や四角形がどの図形と合同になるのか」という課題について、子どもたちはタブレット端末を操作し、図形を横にずらしたり、裏向けたり、回転させたりして、学習を進めていました。少し前までは、教科書の巻末についている図形をハサミで切り取り、実際に動かして確かめをしたものですが、技術革新により、「タブレット端末を使うとこんなこともできるのか」と私自身驚かされました。授業中ある子に、「今はこんな風に、ペン先で図形が動かせてすごいね」と語りかけたら、「校長先生はできないんですか？」と笑顔で返されてしまいました。子どもたちの適応能力はすばらしいと、改めて感じさせられました。

学年が進むにつれ、つまずきが多くなる教科が算数・数学と言われています。本校では、低学年から算数科において、TT（チームティーチング：複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式）や少人数指導（2、3の集団に分けて授業を行う）を進めています。今後も授業研究を積み重ねながら、子どもたちの学力向上に努めていきたいと考えています。



個別懇談会を実施します。

7月16日（金）、19日（月）の2日間を利用して、個別懇談会を実施します。保護者の皆様には、日程調整にご協力いただきありがとうございました。お子様の1学期の様子から評価をさせていただき、通知表をお渡しします。なお、令和2年度より市内公立小学校の連絡表が統一されたので、裏面資料をご一読いただき、お知りおきください。（文責 北住 昌文）